

## 「新しい前進」

会長 三品 優次



# TAKIKAWA ROTARY CLUB

本日は 第2919回 例会  
プログラム  
合唱を楽しもう  
No.2744 3月26日(木)

次週以降の予定  
4月4日(土) 第2グループIM  
4月9日(木) 次年度会長方針  
4月16日(木) 会員卓話

## 第2918回 例会報告

2015年 3月19日(木)

### 会長挨拶・報告



美浜原子力発電所1号機・2号機の廃炉を正式決定した関西電力ですが、このほかに新電力へのユーザーの流出など逆風下にあります。これを順風に変わる姿勢を強めています。この電力業界では、長い間域外で電気を売らないという不文律がありました。来年4月の電気事業法改正により電力小売りが全面自由化されますので、ガス会社や石油元売、商社のエネルギー部門と本格的に手を組み売電を始める様子です。関西電力は、国内需要の3割を占める首都圏へ乗り込む準備を整えています。はじめの仕事は、伊藤忠商事の子会社で、ガスと石油の販売会社伊藤忠エネックスと仙台市に出力11万2000kwの石炭火力発電所を新設し、2017年秋に稼働を目指しています。次には秋田湾岸に関電子会社と丸紅の共同出資の特別目的会社を設立し、65万kwの石炭火力発電機2基を、2020年前半に稼働させるため今年度に環境影響調査を開始いたします。政府は、先に電気事業法の改正を実施いたしました。その後は私の商売に関連するガス事業法・液化石油ガス法・簡易ガス法の3つの法律を2017年に改正する見込みです。この法律が通るとまず都市ガスの料金が現在の認可料金から完全自由化になります。その影響がLPガスに出て来る予感がありますが、これから会社を護るつもりですので、会員の皆様よろしく願いたします。

### 幹事報告



① 芦別・美唄RCより会報が届いております。

### 委員会・同好会報告

#### 親睦委員会 水原 勝之 委員長

本日6時よりスナックにて木曜フォーラムを行いますので、出席をよろしく願いたします。あと3名ほどの空きがございますので、欠席でお返事されている方もよろしく願いたします。

#### 麻雀同好会 小山 進 会長

26日開催予定でご案内いたしておりました麻雀大会でございますが、日程が悪かったせいで出席の人数が少なく、今回は中止といたします。

### PETS(会長エレクト研修セミナー) 報告



#### 宮崎 英彰 エレクト

3月14日(土)15日(日)に、岩見沢にてPETSが行われましたので報告申し上げます。渡辺パストガバナーと松原ガバナー

補佐、山口財団委員長、西田米山委員長と私で出席してまいりました。グループ討議があり大変面白かったです。一番面白かった話は、次期RI会長のテーマは世界へのプレゼントになるのですが、英語ではBe a gift to the worldになりますが、なんでプレゼントがギフトなんだという人がおりました。来年度よろしく願いたします。

### 先週のプログラム

#### 《SAA担当例会》

#### ーゲスト卓話ー



#### SAA 鈴木 英光 委員長

SAAの担当例会でございます。本日の講師は、大変お忙しい中、陸上自衛隊第10普通科連隊長 滝川駐屯地司令であります佐々木裕治様に講話をお願いいたします。簡単に佐々木様の経歴をご紹介します。

#### 【経歴】

- ・昭和41年 岩手県奥州市生まれで現在48歳
- ・平成元年に陸上自衛隊へ入隊され、同年9月に多賀城市の第22普通科連隊に配属
- ・平成9年8月に防衛大学校 訓練指導教官等を歴任
- ・平成24年4月に府中市にいます陸幕運用支援課 航空支援集団司令部陸上連絡官を経て
- ・平成26年3月に現職 第10普通科連隊長兼滝川駐屯地司令とされました。

講話の内容は、「日本の近海における状況」と題して、最近の中国の海洋進出に伴い、東シナ海・南シナ海などで近隣諸国の多くや我が国とトラブルとなっています。我が国の軒先まで船団を組んでサンゴの密漁や海底資源の採掘など、目に余る状況が続いています。また、沖縄の米軍基地の反対運動にも未確認の噂ですが、中国の影が見え隠れしています。中国はいつからこのような身勝手な国になってしまったのか。このような状況を踏まえ駐屯地司令に話を頂きます。

#### 「日本近海における状況」



#### 陸上自衛隊第10普通科連隊長

#### 兼滝川駐屯地司令 佐々木 裕治 様

滝川駐屯地は、昭和30年に九州から移駐し、今年で創設60周年を迎えます。平素より自衛隊協力会はじめ、地元の皆様からのご理解・ご協力に感謝いたします。

本日は、日本を取り巻く情勢、特に東シナ海・南シナ海への中国進出と日本の対応についてご説明します。

まず、世界情勢を概観すると報道の通りISIL

(イスラム国)がシリア・イラクで憂慮される状況であり、日本周辺に目を転ずると、米国が厳しい財政状況から影響力も低下してきており、またロシアは、シリア介入支援やクリミア半島ウクライナでの行動に対し国際社会から批判・孤立しており、一方、北朝鮮は依然として核・弾道ミサイル開発が不透明であり、中国は急速に軍事力を強化しており、それぞれ注視が必要です。北朝鮮は、平成24年に人工衛星と称して太平洋へミサイルを発射しましたが、何をいつするかわからないことが脅威であります。ロシアは、旧ソ連崩壊後、軍事力は低下したものの、近年は天然ガス等による経済復興により軍備力を再強化しつつ、陸・海・空軍が統合した軍管区レベルで大規模な演習を実施しています。中国は、急速に発展する経済力を背景に右肩上がりであり、海・空軍の戦力を増強しています。また、日本の防空識別圏に進入して航空自衛隊が緊急発進(スクランブル)した年間回数は、平成15年以降は増加の一途を辿り、東西冷戦期(昭和59年～平成元年)にも匹敵する勢いで、その内訳もロシアのみならず、中国の回数も増加しています。

次に、東シナ海・南シナ海への中国進出ですが、皆様がわかりやすいように防衛白書の内容だけでなく、専門家(元自衛艦隊司令官等)が公の場で述べている見解も加えて説明します。中国が強大な軍事力を必要とする理由は、国家目標から推察すると、①共産党一党支配体制、②独立国としての領土・領海の保全(アヘン戦争で海洋から領土分割・植民地化された屈辱)、③GDP世界第2位の経済力を支える原材料はアフリカ・オーストラリア・南米から、石油等エネルギー源は中東湾岸から輸入し、その輸送ルートは海洋であること、④超大国としての戦略核戦力の保持(潜水艦から発射する弾道弾)、⑤国際社会における超大国としての地位(米国に比肩する国力)が挙げられます。また、中国が海洋進出する概念として、第一列島線(南西列島)及び第二列島線(小笠原列島)があり、特に第一列島線は領有権を主張する中国が東シナ海の尖閣諸島等の南西諸島、南シナ海の南沙諸島、西沙諸島及びスカボロー礁において漁船・公船・海軍艦艇により各国船舶等への妨害活動を頻繁に行っています。そのうちの一部の島には人工施設を構築して実効支配しています。かつて、フィリピンに米国の海・空軍基地がありましたが、世論等により撤退し、力の間隙が生じたことに乗じ、隙を突いてくるのは中国の常套手段です。それに加えて中国は、輿論戦・法律戦・心理戦いわゆる「三戦」を巧みに駆使して、したたかに正当化しようとしています。日本として島 防衛のためには、海上保安庁・海上自衛隊による常統的な監視・警戒が重要であり、与那国島に沿岸監視部隊を新設する準備を進めているのもその一環です。一方、中国はアフリカ地域に対し国際平和協力活動やODA支援により積極的に関与して影響力を高めています。例えば、自衛隊も活動する南スーダンPKO(UNMISS)及びソマリア・アデン湾海賊対処においても既に中国は参加しています。

こうした情勢に臨む日本の対応ですが、一昨年12月には安全保障会議(通称: NSC)を設立し、国家安全保障戦略を策定新たな防衛計画の大綱及び中期防衛力整備計画も定めました。

特に南西地域への対処は、統合機動力により迅速に機動展開できる部隊を全国に整備して実効性を高めます。即応できる陸上機動力ですが、今後は

機動戦闘車、水陸両用車及びティルト・ローター機(オスプレイ)の装備化が予定されています。そんな中、北海道所在の部隊が担う役割は、各種事態に対応できる機動展開能力の向上、国際平和協力活動等へ派遣できる能力の強化、地域の理解・協力を得て良好な訓練環境を活用した教育訓練・研究の充実への寄与です。

さて、滝川自衛隊(第10普通科連隊)は、第11旅団に所属し、機動旅団化の一翼を担うことが期待されており、地元隊区の空知・石狩地区の防衛・警備はもとより、去年は全ての各自治体(6市5町)との間で防災協定を締結し、地域の安全・安心のため態勢を整備しております。

ところで最近、残念なことに日本人質事件が発生しましたが、2013年1月に北アフリカのアルジェリアで石油プラント建設に関わっていた日本企業「日揮」職員が武装勢力の攻撃により命を落とす事件もありました。その際に政府は、航空自衛隊(政府専用機)でご遺体等を輸送しました。現行法の枠組みにおいて在外邦人を在留国の空港・港湾・集合場所から本邦又は近隣の安全地域に輸送することも自衛隊の任務です。その前提は、外国における災害、騒乱及びその他の緊急事態の場合に外務大臣から防衛大臣へ依頼を受けて行われるもので、行動する上で難しいのは現地情報をいかに獲得できるかであり防衛駐在官の派遣国を増やそうとする動きもそのためです。また、現地へ迅速に派遣できる輸送力(航続距離の長い航空機、艦艇)の整備も喫緊の課題です。

最後に、連隊は一昨年から昨日まで、千歳において武装工作員等が国内に侵入したテロ活動を想定し、北海道警察機動隊と共同訓練を実施しました。我々は、今後とも災害派遣はもとより、日本へ急迫侵害する各種事態に対し日々備えてまいります。ご静聴ありがとうございました。

## 二 三 二 三 B O X

### 三品 優次会員

佐々木連隊長、本日は有難うございました。

### 松原 章会員

14日に第9回「匠の技とふれあう日」が2,300人の来場者で、無事終了しました。

### 近藤 正孝会員

委員長の代わりに代読しました。麻雀延期残念!!

### 鈴木 英光会員

担当例会を終えて。

会長／三品 優次

幹事／深澤 和範

編集／クラブ会報委員会

電子メール info@rotary.gr.jp

ホームページ http://www.rotary.gr.jp/

例会日●毎週木曜日 PM0:30

例会場●ホテルスエヒロ

事務局●ホテルスエヒロ 7F

〒073-0032 滝川市明神町2丁目2-16

TEL(0125)22-3344

FAX(0125)24-2755



クラブ会報は再生紙を使用しています。